

Point

J R 東海 労 大 阪 修 繕 車 両 所 分 会 分 会 情 報

No. 171 2012. 12. 10.

発行責任者

乾 眞規

編集責任者

教 宣 部

摂津平和人権センター主催の

「不戦の日のつどい」が開催されました！！

12月5日、私たち大阪修繕分会は、JR東海労新幹線関西地本、大阪仕業分会、大阪交検分会、大阪台検分会の仲間と共に「不戦の日のつどい」に参加してきました。

この「不戦の日のつどい」は、1941年12月8日、今から71年前に日本が真珠湾攻撃を行い、アメリカ、イギリスに宣戦布告し、第二次世界大戦に突入した日です。摂津平和人権センターは、二度と戦争を起こさないことを合言葉に、この12月8日の日を大切に、毎年この時期に「不戦の日のつどい」を開催しています。

当日は、西谷文和氏（フリージャーナリスト・イラクの子どもを救う会代表）より、「戦争と原発。その利権構造」と題して講演が行われました。

西谷さんからは、シリアでの独裁政権打倒を叫ぶ民衆と、そのデモや集会を徹底的に武力弾圧するアサド政権の間で、事実上の内戦が繰り広げられ、多くの民衆が殺されている現状を、自ら現地入りし、撮影してきた映像をもとに報告されました。

戦争と原発の背後に見えるものは？！

報告の中で、「この内戦を終わらせるには、国連が入り和平合意させるしかありませんが、大国の思惑で簡単にはいきません。宗教や民族などいろいろな口実がありますが、戦争には、結局は経済が絡んでいます。戦争をすることでお金を儲けようとする人がいるから戦争が起きるのです。軍産企業が売った武器でお互いが戦争をしているのが現状です。」そして、「原発問題では、福島第一原発事故が収束していないにもかかわらず、日米政府と原発企業が一体となって、ベトナムやトルコ、ヨルダンなどに原発を輸出しようとしています。その際の売り込みが『核燃料も廃棄物も面倒を見ます』という、モンゴルで掘ったウランで原発を動かし、ウランの生産地であるモンゴルに核のゴミを持って行き地下に埋めて処理する原発ビジネスサイクルをつくりだそうとしています。」

結局、お金儲けを追求してやまない一握りの権力者。そして、その犠牲を強いられる弱者という現実社会の構造があらためて浮き彫りになった講演でした。



私たちができることは、騙されない冷静さと平和を求める熱い心で、戦争をしない、させない。反原発という意思表示を粘り強く発信していくことだと思います。